

## 2-3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部 No.1

項目：品種比較調査

調査名：ねぎの品種比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 育苗方法 チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き

2) は種及び定植月日 〈は 種〉 〈定 植〉

7 月収穫：令和5年1月6日 令和5年3月28日

9 月収穫：令和5年3月29日 令和5年5月11日

10 月収穫：令和5年5月15日 令和5年6月21日

3) 栽植距離 うね幅 100 cm、株間 5 cm（2 粒播き）

4) 定植株数 40,000 本/10a

5) 施肥量 N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a

【基肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15)：40 kg/10a

【追肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15)：40 kg/10a×2 回

6) 使用資材 7 月収穫：パワーリン(P：30%)：60kg/10a

アヅミン(Mg：3%)：40kg/10a

ストロングバランス(アルカリ分：35%、Mg：12.0%、

Mn：0.2%、B：0.2%)：40kg/10a

リン酸カリウム溶液(リン酸濃度 1.15%)を定植 1 週

間前及び定植当日に苗箱へ灌注：1L/箱

9 月収穫及び 10 月収穫：

パワーリン(P：30%)：120kg/10a

過リン酸石灰(P：20.5%)：16.6kg/10a

ストロングバランス(アルカリ分：35%、Mg：12.0%、

Mn：0.2%、B：0.2%)：40kg/10a

7) 収穫月日 7 月収穫：令和5年7月25日

9 月収穫：令和5年9月12日

10 月収穫：令和5年10月24日

8) 薬剤散布 7 月収穫：34 回（成分回数）

9 月収穫：44 回（成分回数）

10 月収穫：37 回（成分回数）

(3) 調査区の構成

1) 調査区 25 区（1 区 40 本（1.0m）、1 区制）

2) 供試品種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	(株)サカタのタネ
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号 盛夏 790	夏秋白扇 5 号 盛夏 790	吉田種苗(株)
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	(株)パセリー菜
MKS-N40 MKS-N43	MKS-N40 MKS-N43 秋の宝山 冬の宝山	MKS-N43 秋の宝山 冬の宝山	ヴィルモラン みかど(株)
	森のめざめ	森のめざめ	トキタ種苗(株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

#### (1) 本年度の結果

##### 1) 生育

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であった。4月下旬から6月上旬まで少雨となったが、以降は周期的に降雨が続いたことから、伸長は順調に進んだ。

なお、収穫時において「MKS-N40」で欠株がやや多かった。

病害は7月上旬にさび病及び葉枯病が発生したが、薬剤散布により出荷時には影響が生じない程度となった。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であったが、7月以降は降雨が少ない時期と多い時期が交互に続き極端に乾燥しなかったことから、伸長は順調に進んだ。

なお、収穫時において「盛夏 790」で欠株がやや多かった。

病害は葉枯病による黄色斑紋症状が散見された。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であったが、7月以降は降雨が少ない時期と多い時期が交互に続き極端に乾燥しなかったことから、伸長は順調に進んだ。栽培終盤の降雨により収穫がやや遅れたことから、軟白径が大きい状態での収穫となった。また、強風による葉折れが生じたが程度は軽く、品種間の差は見られなかった。

なお、収穫時において「みちのく 701」で欠株が多かった。

病害は葉枯病による黄色斑紋症状が散見された。

##### 2) 収量

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

調整重は「夏扇パワー」、「MKS-N40」が同等となり、「みちのく 701」の順に大きかった。また、10a 換算販売箱数は「みちのく 701」、「夏扇パワー」の順に多かった。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

調整重は「盛夏 790」、「夏秋白扇 5 号」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「MKS-N43」、「夏秋白扇 5 号」の順に多かった。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

調整重は「みちのく 701」、「夏秋白扇 5 号」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「夏秋白扇 5 号」、「MKS-N43」の順に多かった。

##### 3) 品質

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

A 品率は「はやぶさ 7」、「MKS-N43」の順に高く、主な落等要因は裂皮であった。また、「はやぶさ 7」、「MKS-N40」、「MKS-N43」は、葉水の量が少ない傾向が見られた。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

A 品率は「盛夏 790」、「森のめざめ」が最も高く、主な落等要因は裂皮や黄色斑紋症状であった。栽培終盤の降雨の影響もあり、葉水の量は品種間の差が見られなかった。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

A 品率は「森のめざめ」、「はやぶさ 7」の順に高く、主な落等要因は裂皮や黄色斑紋症状であった。栽培終盤の降雨の影響もあり、葉水の量は品種間の差が見られなかった。

以上より、今年度の調査で、10a 換算販売箱数及び A 品率の点から、作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。

7月収穫・・・「夏扇パワー」

9月収穫・・・「MKS-N43」

10月収穫・・・「はやぶさ 7」

#### (2) 次年度以降の計画

継続

表 1 収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品 率(%)	A品 率(%)	10a換算収量 (kg/10a)		10a換算 販売 箱数	調査 本数
									うち外品			
7/25	夏扇パワー	95.4	149.6	43.9	29.4	18.3	69.3	71.4	5,537	0	1,006	37
	夏秋白扇5号	96.0	139.7	43.9	29.8	18.1	65.9	66.6	5,169	70	971	37
	みちのく701	100.9	145.5	46.6	30.7	18.0	69.1	60.9	5,675	129	1,056	39
	はやぶさ7	90.2	134.9	40.2	30.0	18.9	74.1	89.3	5,128	0	977	38
	MKS-N40	94.6	149.6	39.9	30.1	21.0	94.7	82.3	5,237	0	998	35
	MKS-N43	102.2	134.1	44.6	30.6	18.2	61.7	84.9	5,097	0	971	38
9/12	夏扇パワー	95.4	144.3	44.6	32.7	19.1	78.3	76.8	5,628	113	1,050	39
	夏秋白扇5号	98.0	154.2	45.5	33.1	20.3	91.3	78.7	5,705	73	1,073	37
	盛夏790	89.2	155.3	39.5	32.1	21.2	94.0	87.1	5,126	0	976	33
	みちのく701	94.9	146.5	44.3	31.7	19.8	82.6	78.9	5,568	58	1,050	38
	はやぶさ7	89.3	145.4	39.6	31.0	19.6	77.7	78.5	5,234	0	997	36
	MKS-N40	87.5	136.9	39.9	33.6	19.9	90.9	85.6	4,930	88	922	36
	MKS-N43	95.1	148.5	43.1	32.7	20.1	89.8	85.6	5,793	16	1,100	39
	秋の宝山	90.4	135.9	40.5	32.5	20.5	93.3	75.3	5,029	0	958	37
	冬の宝山	91.4	111.0	37.6	31.2	19.2	78.2	75.0	4,328	147	796	39
	森のめざめ	88.1	137.7	48.6	31.4	20.7	92.3	87.0	5,370	0	1,023	39
10/24	夏扇パワー	106.0	166.4	42.8	33.5	21.5	95.3	70.2	6,156	90	1,155	37
	夏秋白扇5号	105.2	180.8	43.0	32.7	22.9	100.0	61.8	6,510	0	1,240	37
	盛夏790	98.3	169.5	48.1	32.2	23.1	94.4	68.9	6,272	0	1,195	37
	みちのく701	103.9	194.8	41.9	32.1	23.0	100.0	69.7	5,844	0	1,113	30
	はやぶさ7	97.5	164.6	40.1	31.7	22.2	96.6	75.0	6,421	144	1,196	39
	MKS-N43	102.8	164.8	42.5	32.9	22.2	97.0	63.7	6,429	0	1,225	39
	秋の宝山	99.5	150.3	41.1	33.7	21.5	91.3	70.9	5,861	249	1,069	39
	冬の宝山	101.5	137.0	39.3	31.3	21.5	96.8	57.9	5,207	0	992	38
	森のめざめ	98.1	160.8	41.0	33.1	22.4	96.9	81.0	6,271	35	1,188	39

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

表 2 等級規格別収量割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/25	夏扇パワー	3.8	46.3	21.3	0.0	0.0	19.2	7.9	1.5
	夏秋白扇5号	0.0	42.9	23.7	0.0	0.0	23.0	9.0	1.4
	みちのく701	0.0	46.2	14.7	0.0	0.0	22.9	13.9	2.3
	はやぶさ7	2.9	62.8	23.6	0.0	0.0	8.4	2.3	0.0
	MKS-N40	26.9	51.2	4.2	0.0	6.3	10.3	1.1	0.0
	MKS-N43	0.0	55.3	29.6	0.0	0.0	6.4	8.7	0.0
9/12	夏扇パワー	16.3	50.4	10.1	0.0	0.0	11.6	9.6	2.0
	夏秋白扇5号	32.5	40.9	3.9	1.4	6.6	11.2	2.2	1.3
	盛夏790	30.9	50.2	6.0	0.0	3.6	9.3	0.0	0.0
	みちのく701	33.0	34.4	10.4	1.1	3.2	12.0	4.9	1.0
	はやぶさ7	29.1	31.1	17.0	1.3	6.9	10.6	4.0	0.0
	MKS-N40	31.7	46.6	5.9	1.4	6.6	6.0	0.0	1.8
	MKS-N43	31.7	47.3	5.8	0.8	3.5	7.3	3.3	0.3
	秋の宝山	18.5	50.1	6.7	0.0	6.3	18.4	0.0	0.0
	冬の宝山	4.2	56.3	14.5	0.0	3.4	14.3	4.0	3.4
	森のめざめ	27.2	52.1	7.7	0.0	3.3	9.7	0.0	0.0
10/24	夏扇パワー	47.9	22.3	0.0	0.0	15.6	9.5	3.2	1.5
	夏秋白扇5号	45.5	16.3	0.0	0.0	24.1	14.1	0.0	0.0
	盛夏790	58.8	8.7	1.4	0.0	21.9	5.0	4.2	0.0
	みちのく701	46.7	23.0	0.0	0.0	18.4	11.9	0.0	0.0
	はやぶさ7	59.8	15.2	0.0	0.0	11.4	10.2	1.1	2.3
	MKS-N43	47.6	16.1	0.0	0.0	22.5	10.8	3.0	0.0
	秋の宝山	35.3	31.1	4.5	0.0	18.7	6.2	0.0	4.2
	冬の宝山	24.8	33.0	0.0	0.0	23.1	15.9	3.2	0.0
	森のめざめ	60.7	19.2	1.1	0.0	5.1	11.9	1.5	0.5

※重量ベースで積算。割合の計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 3 等級規格別 10a 換算出荷数量

収穫日	品種名	A				B			10a換算 販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/25	夏扇パワー	40	488	225	0	0	170	83	1,006
	夏秋白扇5号	0	422	233	0	0	227	89	971
	みちのく701	0	499	159	0	0	248	150	1,056
	はやぶさ7	0	29	614	230	0	82	22	977
	MKS-N40	268	511	42	0	63	103	11	998
	MKS-N43	0	537	287	0	0	62	85	971
9/12	夏扇パワー	175	540	108	0	0	124	103	1,050
	夏秋白扇5号	353	445	42	15	71	123	24	1,073
	盛夏790	302	490	58	0	35	91	0	976
	みちのく701	350	365	111	12	34	127	51	1,050
	はやぶさ7	290	310	169	13	69	106	40	997
	MKS-N40	298	437	56	13	62	56	0	922
	MKS-N43	350	521	64	9	38	81	37	1,100
	秋の宝山	177	480	64	0	61	176	0	958
	冬の宝山	34	464	119	0	28	118	33	796
	森のめざめ	278	533	79	0	34	99	0	1,023
10/24	夏扇パワー	562	261	0	0	183	112	37	1,155
	夏秋白扇5号	564	202	0	0	299	175	0	1,240
	盛夏790	702	104	17	0	262	60	50	1,195
	みちのく701	519	257	0	0	205	132	0	1,113
	はやぶさ7	731	186	0	0	140	125	14	1,196
	MKS-N43	583	198	0	0	276	132	36	1,225
	秋の宝山	394	348	50	0	208	69	0	1,069
	冬の宝山	247	328	0	0	229	157	31	992
	森のめざめ	725	230	13	0	60	142	18	1188

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

## 露地野菜の部 No.2

### 項目：栽培技術調査

調査名：ねぎの一発型肥料に係る収量比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

- 1 目的 当地域におけるねぎの一発型肥料による作型別収量について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303 (264 穴) 2 粒播き
- 2) は種及び定植月日 〈は 種〉 〈定 植〉
- 7 月収穫：令和5年1月6日 令和5年3月28日
- 9 月収穫：令和5年3月29日 令和5年5月11日
- 10 月収穫：令和5年5月15日 令和5年6月21日
- うね幅 100 cm、株間 5 cm (2 粒播き)
- 3) 栽植距離
- 4) 定植株数 40,000 本/10a
- 5) 施肥量
- ①慣行
- N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
- 【基肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15)：40 kg/10a
- 7 月収穫：令和5年3月28日
- 9 月収穫：令和5年5月17日
- 10 月収穫：令和5年6月26日
- 【追肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15)：40 kg/10a×2 回
- 7 月収穫：令和5年5月10日、6月21日
- 9 月収穫：令和5年6月28日、8月7日
- 10 月収穫：令和5年8月4日、9月13日
- ②一発型肥料
- N-P-K=18.0-6.2-6.2 kg/10a
- 【基肥】ねぎ一発 699(26-9-9)：69.2 kg/10a
- 7 月収穫：令和5年3月28日
- 9 月収穫：令和5年5月17日
- 10 月収穫：令和5年6月26日
- 6) 使用資材
- 7 月収穫：パワーリン(P：30%)：60kg/10a
- アヅミン(Mg：3%)：40kg/10a
- ストロングバランス(アルカリ分：35%、Mg：12.0%、Mn：0.2%、B：0.2%)：40kg/10a
- リン酸カリウム溶液(リン酸濃度 1.15%)を定植 1 週間前及び定植当日に苗箱へ灌注：1L/箱
- 9 月収穫及び 10 月収穫：
- パワーリン(P：30%)：120kg/10a
- 過リン酸石灰(P：20.5%)：16.6kg/10a
- ストロングバランス(アルカリ分：35%、Mg：12.0%、Mn：0.2%、B：0.2%)：40kg/10a
- 7) 収穫月日
- 7 月収穫：令和5年7月25日
- 9 月収穫：令和5年9月12日、9月20日
- 10 月収穫：令和5年10月24日、10月31日
- 8) 薬剤散布
- 7 月収穫：34 回 (成分回数)
- 9 月収穫：44 回 (成分回数)
- 10 月収穫：37 回 (成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 10 区 (1 区 40 本 (1.0m)、1 区制)
- 2) 供試品種 夏扇パワー(株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であったが、4月下旬から6月上旬まで少雨となったが、以降は周期的に降雨が続いたことから、伸長は順調に進んだ。

病害は7月上旬にさび病及び葉枯病が発生したが、薬剤散布により出荷時には影響が生じない程度となった。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であったが、7月以降は降雨が少ない時期と多い時期が交互に続き極端に乾燥しなかったことから、伸長は順調に進んだ。

病害は葉枯病による黄色斑紋症状が散見された。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

栽培期間を通して高温傾向であったが、7月以降は降雨が少ない時期と多い時期が交互に続き極端に乾燥しなかったことから、伸長は順調に進んだ。栽培終盤の降雨により収穫がやや遅れたことから、軟白径が大きい状態での収穫となった。また、強風による葉折れが生じたが程度は軽かった。

病害は葉枯病による黄色斑紋症状が散見された。

## 2) 収量

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

調整重は一発型肥料区が重く、10a 換算販売箱数も一発型肥料区が多かった。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

9月12日収穫では、調整重は一発型肥料区が大きく、10a 換算販売箱数も一発型肥料区が多かった。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

10月24日収穫では、調整重は一発型肥料区が大きく、10a 換算販売箱数も一発型肥料区が多かった。

## 3) 品質

(7月収穫：3/28 定植～7/25 収穫)

A 品率は一発型肥料区が高く、主な落等要因は裂皮であった。

(9月収穫：5/11 定植～9/12 収穫)

9月12日収穫では、A 品率は一発型肥料区が高く、主な落等要因は裂皮や黄色斑紋症状であった。

(10月収穫：6/21 定植～10/24 収穫)

10月24日収穫では、A 品率は一発型肥料区が高く、主な落等要因は裂皮や黄色斑紋症状であった。

以上より、今年度の調査では、いずれの作型においても、10a 換算販売箱数及び A 品率には一発型肥料区が優れていた。

## (2) 次年度以降の計画

継続

表 1 収量調査

定植日	収穫日	調査区	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品 率 (%)	A 品 率 (%)	10a換算収量 (kg/10a)		10a換算 販売 箱数	調査 本数
										うち外品			
3/28	7/25	慣行	95.4	149.6	43.9	29.4	18.3	69.3	71.4	5,537	0	1,006	37
		一発型肥料	96.7	158.1	43.8	30.8	19.0	81.8	74.4	5,377	27	1,019	34
5/11	9/12	慣行	95.4	144.3	44.6	32.7	19.1	78.3	76.8	5,628	113	1,050	39
		一発型肥料	95.3	155.1	44.2	32.6	20.2	90.4	85.1	5,739	0	1,093	37
6/21	10/24	慣行	106.0	166.4	42.8	33.5	21.5	95.3	70.2	6,156	90	1,155	37
		一発型肥料	105.7	174.4	42.9	32.5	21.8	94.5	74.5	6,802	0	1,296	39

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

表 2 等級規格別収量割合

定植日	収穫日	調査区	A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
3/28	7/25	慣行	3.8	46.3	21.3	0.0	0.0	19.2	7.9	1.5
		一発型肥料	3.9	57.9	12.6	0	6.9	13.1	5.1	0.5
5/11	9/12	慣行	16.3	50.4	10.1	0.0	0.0	11.6	9.6	2.0
		一発型肥料	12.1	63.4	8	1.6	6.9	8	0	0
6/21	10/24	慣行	47.9	22.3	0.0	0.0	15.6	9.5	3.2	1.5
		一発型肥料	43.5	29.1	1.9	0	10.8	11.1	3.6	0

※重量ベースで積算。割合の計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 3 等級規格別 10a 換算出荷数量

定植日	収穫日	調査区	A				B			10a換算 販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
3/28	7/25	慣行	40	488	225	0	0	170	83	1,006
		一発型肥料	40	592	130	0	71	134	52	1,019
5/11	9/12	慣行	175	540	108	0	0	124	103	1,050
		一発型肥料	132	693	88	17	75	88	0	1,093
6/21	10/24	慣行	562	261	0	0	183	112	37	1,155
		一発型肥料	563	377	25	0	140	144	47	1,296

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

## 露地野菜の部 No.3

### 項目：品種比較調査

調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

- 1 目的 当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- |             |                 |                                      |
|-------------|-----------------|--------------------------------------|
| 1) 栽培方法     | マルチ栽培           |                                      |
| 2) は種及び定植月日 | 〈は 種〉           | 〈定 植〉                                |
|             | ①4月定植：令和5年2月17日 | 令和5年4月21日<br>(定植直後パスライト1枚<br>トンネル被覆) |
|             | ②5月定植：令和5年3月16日 | 令和5年5月12日<br>(定植直後パスライト1枚<br>トンネル被覆) |
- 3) 育苗日数 ①63日 ②57日
- 4) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 5) 定植株数 1,300 株/10a
- 6) 施肥量
- |  |  |
|--|--|
| ①N - P - K=49.4-19.7-38.8 kg/10a             |  |
| 【基肥】新豊作太郎 800(18-10-10) : 133 kg/10a         |  |
| 【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16) : 31.9 kg/10a×5回 |  |
| 令和5年6月21日、7月11日、7月31日、8月21日、9月11日            |  |
| ②N - P - K=44.3-18.4-33.7 kg/10a             |  |
| 【基肥】新豊作太郎 800(18-10-10) : 133 kg/10a         |  |
| 【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16) : 31.9 kg/10a×4回 |  |
| 令和5年7月11日、7月31日、8月21日、9月11日                  |  |
- 7) 使用資材 暖あったかマルチ、15 cm×5 目フラワーネット(3 段)
- 8) 収穫期間 ①令和5年6月12日～10月31日  
②令和5年6月14日～10月31日
- 9) 薬剤散布 38 回(成分回数)
- (3) 調査区の構成
- |         |  |
|---------|--|
| 1) 調査区  | 4 区(1 区 5 株、1 区制)                      |
| 2) 供試品種 | 〈1〉ピクシー (横浜植木株)<br>〈2〉No. 155 (タキイ種苗株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 本年度の結果

#### 1) 生育

定植後、4月定植は少雨傾向から収穫前の草丈が例年に比べ低くなった一方、5月定植は降雨があり順調に生育した。また、収穫は4月定植で6月12日、5月定植で6月14日に始まり実の肥大は順調であった。その後の7月下旬から8月上旬の高温乾燥が、肥大遅れやシワ果の発生に伴う8月後半の減収、花落ち及び樹勢低下につながった。

その後も高温が続き、樹勢は弱めで肥大は遅れ気味となった。また、9月前半及び10月は適度な降雨により収量は多くなった。

なお、「No. 155」は脇芽の発生が「ピクシー」に比べ少ないことから、整枝に要する時間は生育前半で「ピクシー」に比べやや少なく、生育後半は同等であった。

病害虫は、8月にオオタバコガ、テントウムシダマシの被害が散見された。

#### 2) 収量

可販 10a 換算収量は、4月定植で「ピクシー」が上回り、5月定植で同等であった。

可販月別収量は、両作型及び両品種において8月が最も多かった。

可販旬別収量は、4月定植では7月上旬、7月下旬から8月上旬、9月上中旬、10月上下旬でピークがみられた。また、5月定植では7月上旬、7月下旬から8月上旬、9



月上旬、10 月上下旬でピークがみられた。両作型とも 2 回目以降のピークは「No. 155」が「ピクシー」よりも早く、肥大はより早めの傾向であった。10 月中下旬は「No. 155」で収量が低下した。

### 3) 品質

総数 A 品率は、4 月定植及び 5 月定植のいずれも「No. 155」が高かった。

可販 A 品率は、4 月定植では「No. 155」、5 月定植では「ピクシー」が高かった。

可販 10a 換算 A 品収量は、4 月定植では「ピクシー」が、5 月定植では同等であった。なお、総数に占める外品の割合は「ピクシー」の方が多く、その主な要因は夏期の高温乾燥によるシワ果の発生であった。

主な落等要因は、「ピクシー」の B 品では夏期の奇形果や 10 月以降の先尖り果が多く、外品ではシワ果の他に外傷が多かった。「No. 155」の B 品では夏期の奇形果や外傷が多く、外品では外傷の他に 5 月定植で 8 月に尻腐れ果がやや多く見られた。

本年度は品種特性の把握のため乾燥時の灌水及びカルシウム剤散布を行わなかったことから、極端な高温乾燥により上記の障害が出やすい条件となったと考えられる。また、奇形は高温の影響が強く、品種による差異は判然としなかった。

以上より、今年度の調査では可販 10a 換算収量及び可販 10a 換算 A 品収量の点から 4 月定植では「ピクシー」が優れ、5 月定植では「ピクシー」「No. 155」で同等となった。

「ピクシー」は肥大が緩やかであり、高温乾燥下ではシワ果や奇形が発生しやすい傾向があった。一方、「No. 155」は肥大がやや早く、高温乾燥下では尻腐れ果や奇形が発生しやすい傾向があり、10 月中下旬で収量が低下した。

### (2) 次年度以降の計画

継続

表 1 収量調査

作型	品種名	A 品		B 品		外品		総数				
		収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	A 品率	平均 1果重	10a換算 収量
		(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(%)	(g)	(t)
4月 定植	ピクシー	6,922	183.2	2,555	69.0	1,870	54.2	11,347	306.4	61.0	37.0	14.8
	No. 155	6,483	162.6	2,192	55.0	1,062	30.2	9,737	247.8	66.6	39.3	12.7
5月 定植	ピクシー	7,617	201.4	2,005	53.4	1,913	55.2	11,535	310.0	66.0	37.2	15.0
	No. 155	7,529	183.4	2,183	54.4	1,108	30.8	10,820	268.6	69.6	40.3	14.1
続き												
作型	品種名	可販 (A 品 + B 品)										
		収量	果数	A 品率	平均 1果重	10a換算 収量	10a換算 A品収量					
		(g)	(個)	(%)	(g)	(t)	(t)					
4月 定植	ピクシー	9,477	252.2	73.0	37.6	12.3	9.0					
	No. 155	8,675	217.6	74.7	39.9	11.3	8.4					
5月 定植	ピクシー	9,622	254.8	79.2	37.8	12.5	9.9					
	No. 155	9,712	237.8	77.5	40.8	12.6	9.8					

※調査区は連続 5 株調査した 1 株当たりの平均。

※総収量=A 品収量+B 品収量。総果数=A 品果数+B 品果数。A 品率=A 品収量/総収量。10a 換算収量=総収量×1,300 株/10a。

10a 換算 A 品収量=10a 換算収量×A 品率。 ※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2 障害発生率（個数％）

作型	品種名	B品(個数％)							外品(個数％)							
		突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
4月	ピクシー	2.1	18.2	17.5	0.0	12.1	0.0	50.0	2.2	0.4	4.8	0.0	26.6	0.4	58.3	7.4
定植	No. 155	2.8	3.5	11.9	0.7	17.2	0.7	63.2	5.3	1.3	2.6	0.7	48.3	5.3	6.0	30.5
5月	ピクシー	1.6	15.2	13.7	0.6	18.4	0.0	50.5	0.7	0.0	0.4	0.0	32.2	2.9	58.0	5.8
定植	No. 155	2.7	7.8	7.8	0.3	19.7	0.3	61.4	3.2	0.0	0.6	0.0	57.1	20.1	1.3	17.5

※100%とならないのは四捨五入のため。

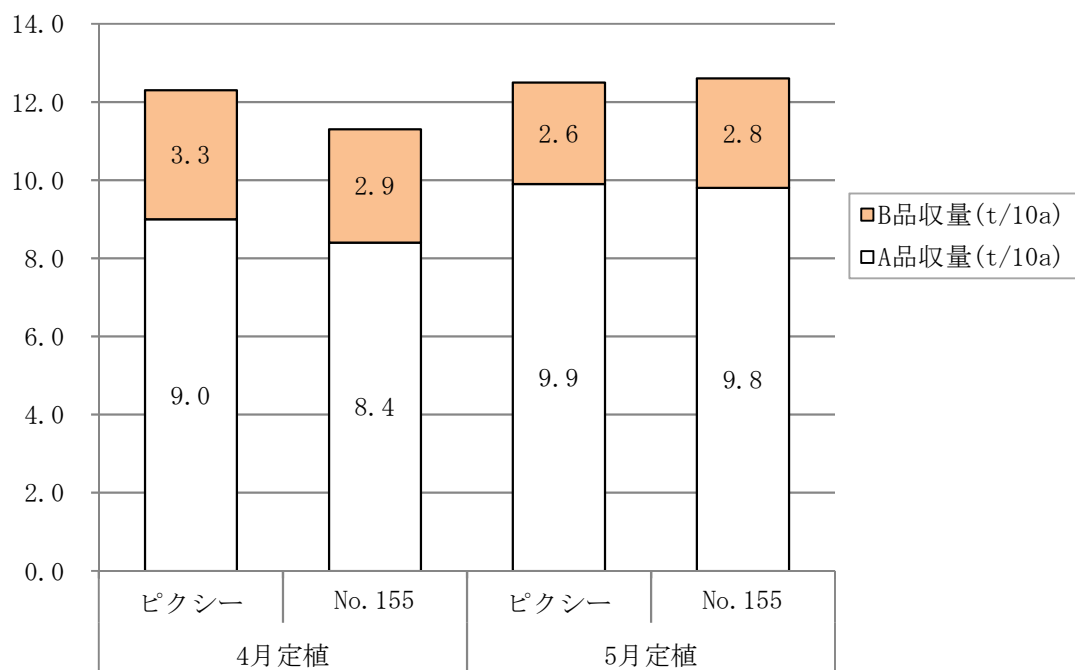


図 1 可販 10a 換算収量 (t/10a)

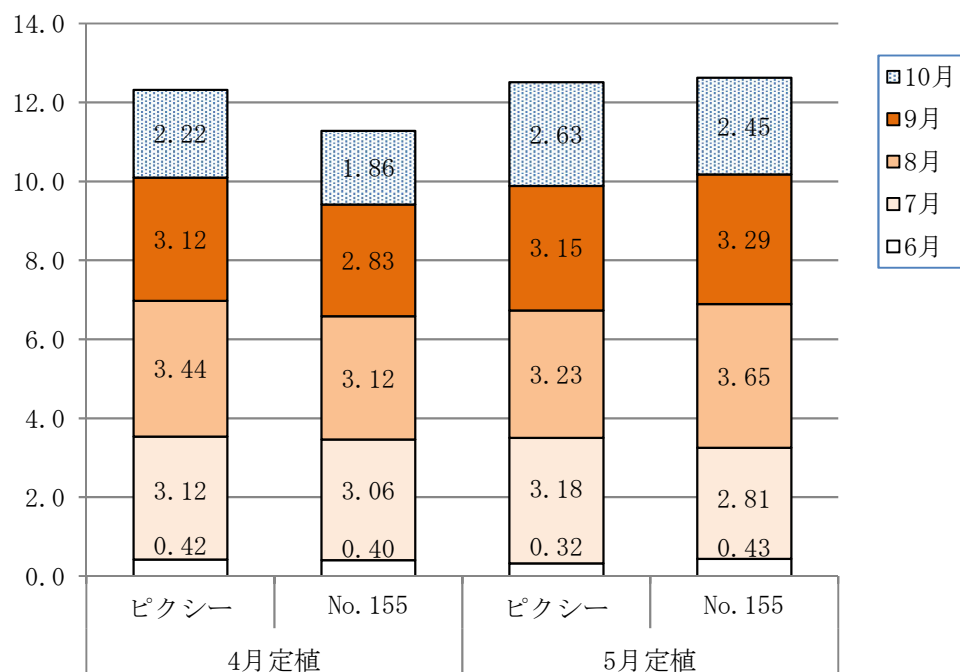


図 2 可販月別収量 (t/10a)

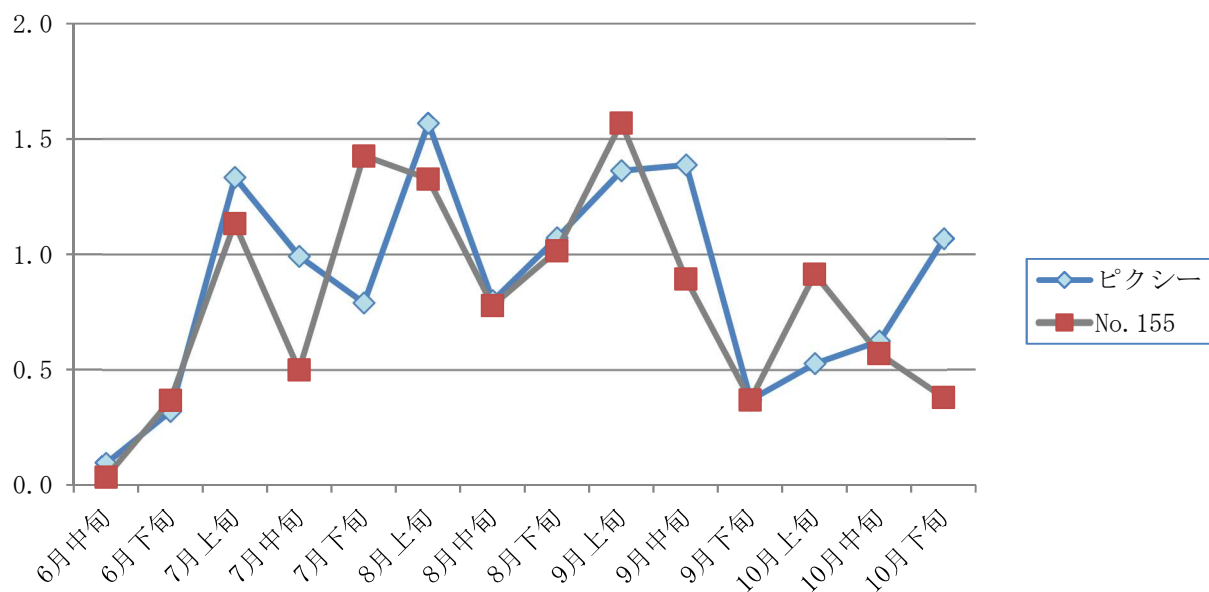


図3 可販旬別収量 (t/10a) (4月定植)

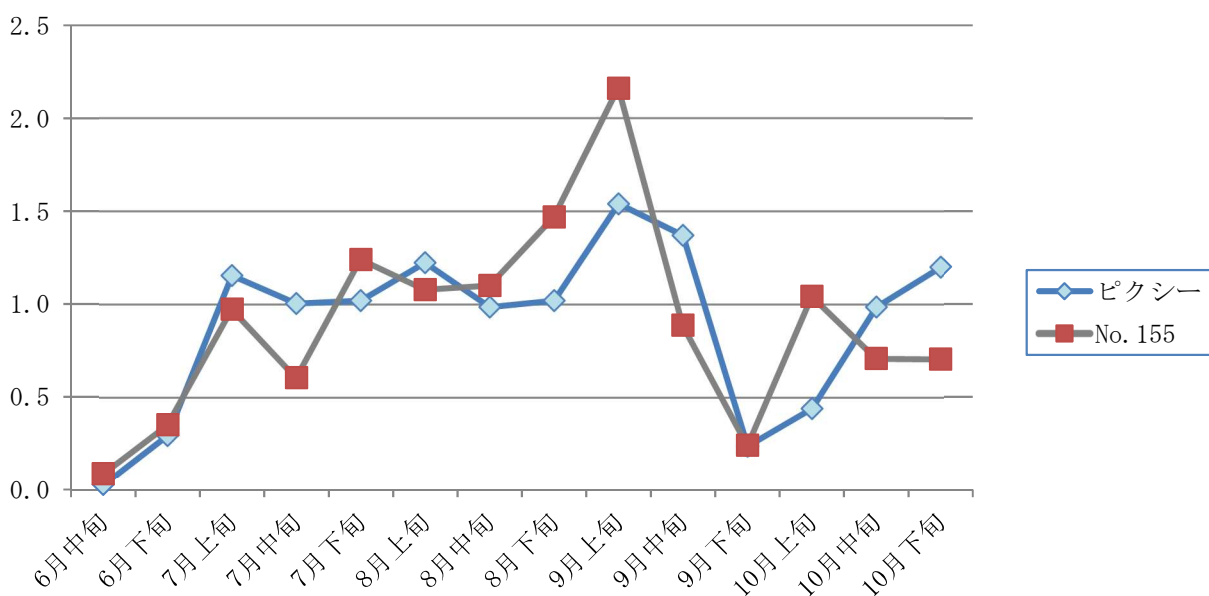


図4 可販旬別収量 (t/10a) (下段：5月定植)

## 露地野菜の部 No.4

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の基肥量別収量比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、基肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

## 2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 マルチ栽培

2) は種及び定植月日 〈は種〉 〈定植〉

令和5年3月16日

令和5年5月12日

(定植直後パスライト1枚トンネル被覆)

3) 育苗日数 57日

4) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm

5) 定植株数 1,300株/10a

6) 施肥量

【施肥量】

〈基肥〉(kg/10a) 〈追肥〉(kg/10a)

新豊作太郎 800

くみあい 燐硝安加里 S646

(18-10-10)

(16-4-16)

① 116

31.9×4回

② 133 (慣行)

31.9×4回

③ 150

31.9×4回

【成分量】

〈基肥〉(kg/10a) 〈追肥〉(kg/10a) 合計(kg/10a)

N P K N P K N P K

① 20.9 11.6 11.6 20.4 5.1 20.4 41.3 16.7 32.0

② 23.9 13.3 13.3 20.4 5.1 20.4 44.3 18.4 33.7

③ 27.0 15.0 15.0 20.4 5.1 20.4 47.4 20.1 35.4

【追肥時期】

定植後60日、以降概ね20日おき計4回

令和5年7月11日、7月31日、8月21日、9月11日

7) 使用資材 暖あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段)

8) 収穫期間 令和5年6月14日～10月31日

9) 薬剤散布 38回(成分回数)

(3) 調査区の構成

1) 調査区 3区(1区5株、1区制)

2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

## 3 結果の概要

(1) 本年度の結果

1) 生育

定植後は順調に生育し、収穫は6月14日に始まった。実の肥大は順調であったが、その後の7月下旬から8月上旬の高温乾燥が、肥大遅れやシワ果の発生に伴う8月後半の減収、花落ち及び樹勢低下につながった。

その後も高温が続き、樹勢は弱めで肥大は遅れ気味となった。また、9月前半及び10月後半は適度な降雨により収量は多くなった。

病害虫は、8月にオオタバコガ、テントウムシダマシの被害が散見された。

2) 収量

可販10a換算収量は、調査区②が最も多かった。

可販月別収量は、調査区①、②で8月が、調査区③で7月が最も多かった。

可販旬別収量は、各調査区で7月上旬から8月中旬にかけて小さなピークが見られたが、基肥量による傾向は判然としなかった。その後、高温乾燥後の降雨により9月上旬に最も大きなピークとなり、降雨少照を経て10月下旬にピークが見られた。

なお、調査区③は他の調査区に比べ、果数及び9月以降の収量が少ない傾向となった他、総数平均1果重及び可販平均1果重が小さかった。

### 3) 品質

総数 A 品率及び可販 A 品率は、調査区①、②、③の順に高く、基肥量が少ない方が高くなる傾向となった。

可販 10a 換算 A 品収量は、調査区①、②が同等で、調査区③より多かった。

主な落等要因は、B 品では夏期の奇形果や 10 月以降の先尖り果が多く、外品ではシワ果の他に外傷が多かった。本年度は極端な高温乾燥により上記の障害が出やすい条件となったと考えられた。

また、発生した障害の傾向について、基肥量の違いによる差異は判然としなかった。

今年度の調査では、可販 10a 換算収量及び可販 10a 換算 A 品収量の点から調査区②が優れていた。また、調査区③は調査区①、②に比べ、果数及び平均 1 果重が総数及び可販のいずれも少なかった。これらの傾向や要因について、今後の調査により把握する必要があると思われた。

### (2) 次年度以降の計画

継続

表 1 収量調査

調査区	A 品		B 品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A 品率 (%)	平均 1 果重 (g)	10a 換算 収量 (t)
①基肥116kg/10a	7,532	198.8	1,807	49.2	1,721	51.0	11,060	299.0	68.1	37.0	14.4
②基肥133kg/10a	7,617	201.4	2,005	53.4	1,913	55.2	11,535	310.0	66.0	37.2	15.0
③基肥150kg/10a	5,930	157.2	2,060	59.8	1,974	56.6	9,964	273.6	59.5	36.4	13.0

続き

調査区	可販 (A 品 + B 品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A 品率 (%)	平均 1 果重 (g)	10a 換算 収量 (t)	10a 換算 A 品収量 (t)
①基肥116kg/10a	9,339	248.0	80.7	37.7	12.1	9.8
②基肥133kg/10a	9,622	254.8	79.2	37.8	12.5	9.9
③基肥150kg/10a	7,990	217.0	74.2	36.8	10.4	7.7

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

※総収量=A 品収量+B 品収量。総果数=A 品果数+B 品果数。A 品率=A 品収量/総収量。10a 換算収量=総収量×1,300 株/10a。

10a 換算 A 品収量=10a 換算収量×A 品率。

※調査区は連続 5 株調査した 1 株当たりの平均。

表 2 障害発生率 (個数%)

調査区	B品(個数%)							外品(個数%)							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①基肥116kg/10a	2.1	13.7	17.9	0.4	15.4	0.0	50.5	0.8	0.8	2.4	0.0	29.0	1.2	60.0	5.9
②基肥133kg/10a	1.6	15.2	13.7	0.6	18.4	0.0	50.5	0.7	0.0	0.4	0.0	32.2	2.9	58.0	5.8
③基肥150kg/10a	1.4	14.1	17.5	0.9	17.8	0.0	48.3	1.4	0.0	1.8	0.0	24.0	0.7	66.8	5.3

※100%とならないのは四捨五入のため。

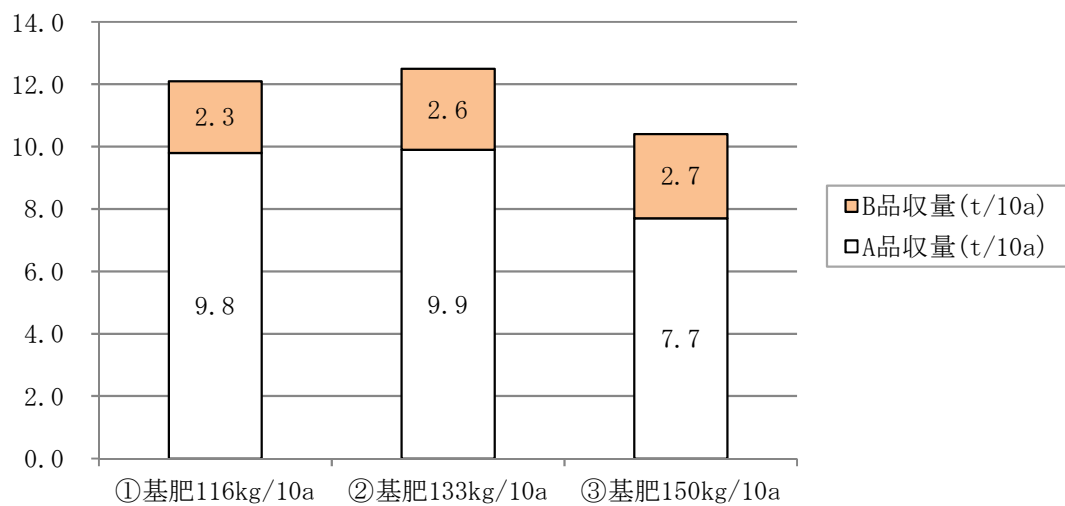


图1 可販 10a 換算収量 (t/10a)

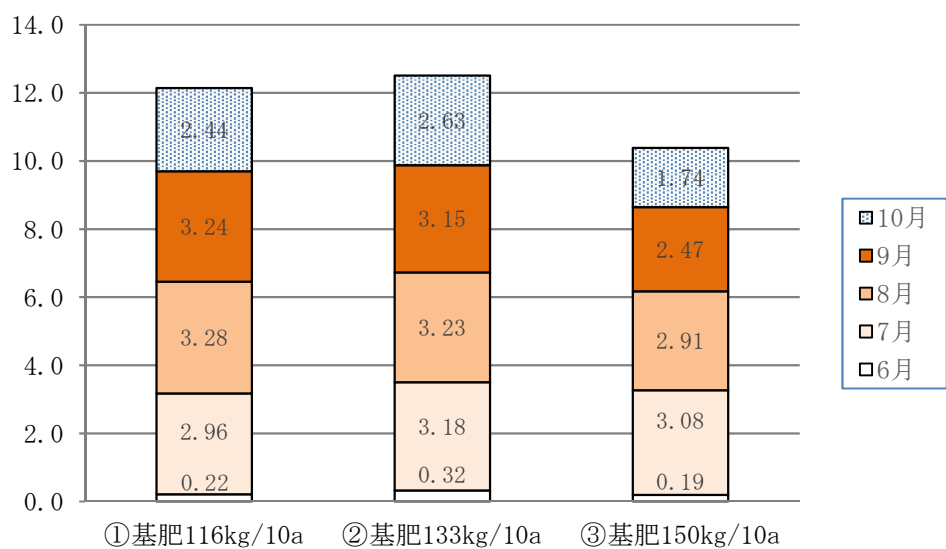


图2 可販月別収量 (t/10a)

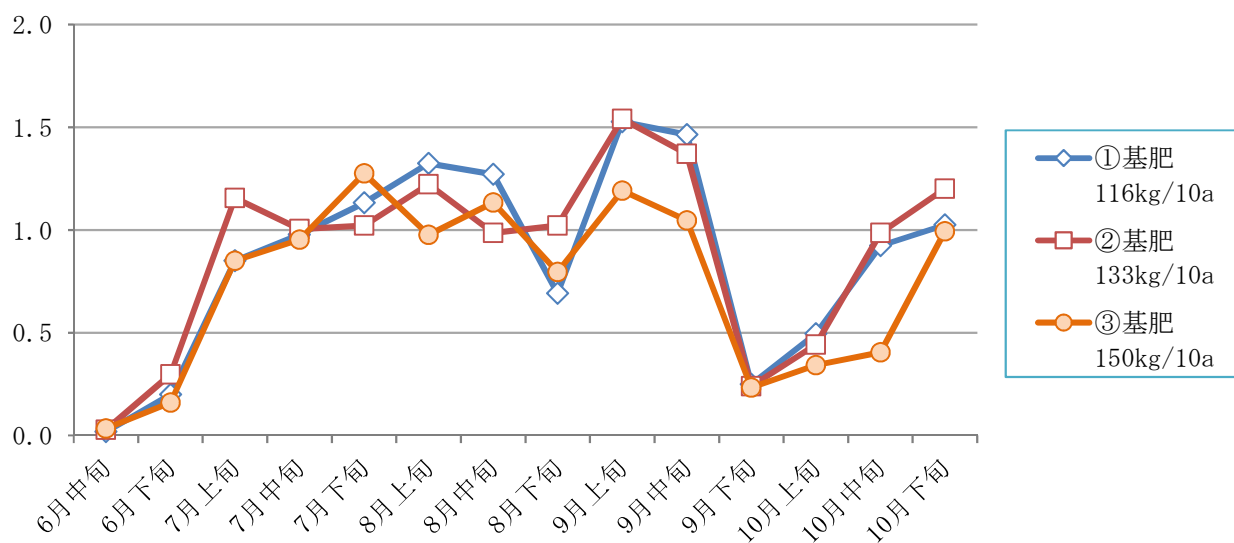


图3 可販旬別収量 (t/10a)

## 露地野菜の部 No.5

### 項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の追肥量別収量比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

- 1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、追肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 マルチ栽培

- 2) は種及び定植月日  
〈は種〉 令和5年3月16日  
〈定植〉 令和5年5月12日  
(定植直後バスライト1枚トンネル被覆)

- 3) 育苗日数 57日

- 4) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm

- 5) 定植株数 1,300 株/10a

- 6) 施肥量

#### 【施肥量】

〈基肥〉 (kg/10a)			〈追肥〉 (kg/10a)		
新豊作太郎 800			くみあい磷硝安加里 S646		
(18-10-10)			(16-4-16)		
①	133		29.0×4 回		
②	133 (慣行)		31.9×4 回		
③	133		35.0×4 回		
④	133		38.0×4 回		

#### 【成分量】

〈基肥〉 (kg/10a)			〈追肥〉 (kg/10a)			合計 (kg/10a)			
N	P	K	N	P	K	N	P	K	
①	23.9	13.3	13.3	18.6	4.6	18.6	42.5	17.9	31.9
②	23.9	13.3	13.3	20.4	5.1	20.4	44.3	18.4	33.7
③	23.9	13.3	13.3	22.4	5.6	22.4	46.3	18.9	35.7
④	23.9	13.3	13.3	24.3	6.1	24.3	48.2	19.4	37.6

#### 【追肥時期】

定植後 60 日、以降概ね 20 日おき計 4 回

令和5年7月11日、7月31日、8月21日、9月11日

- 7) 使用資材 暖あったかマルチ、15 cm×5 目フラワーネット(3段)

- 8) 収穫月日 令和5年6月14日～10月31日

- 9) 薬剤散布 38 回 (成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 4 区 (1 区 5 株、1 区制)

- 2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 本年度の結果

1) 生育

定植後は順調に生育し、収穫は6月14日に始まった。実の肥大は順調であったが、その後の7月下旬から8月上旬の高温乾燥が、肥大遅れやシワ果の発生に伴う8月後半の減収、花落ち及び樹勢低下につながった。

その後も高温が続き、樹勢は弱めで肥大は遅れ気味となった。また、9月前半及び10月後半は適度な降雨により収量は多くなった。

病害虫は、8月にオオタバコガ、テントウムシダマシの被害が散見された。

2) 収量

可販 10a 換算収量は、調査区④が最も多かったが調査区間での差は小さく、追肥量の違いによる傾向は判然としなかった。

可販月別収量は、調査区①、②では8月が、調査区③、④では9月が最も多かった。

可販旬別収量は、各調査区で7月上旬から8月中旬にかけて小さなピークが見られたが、追肥量による傾向は判然としなかった。その後、高温乾燥後の降雨により9月

上中旬に最も大きなピークとなり、その増減の差は調査区③、④でより大きい傾向となった。さらに、降雨少照を経て10月下旬にピークが見られた。

果数は、総数では調査区④、③、②、①の順で多く、また、可販では調査区④が最も多く、調査区①、②、③が同等であった。

平均1果重は、総数及び可販のいずれも調査区①、②が同等で大きく、調査区③、④が小さくなる傾向となった。

### 3) 品質

総数A品率は調査区①、②、③、④の順に高く、また、可販A品率は調査区②、①、③、④の順に高く、追肥量が少ない方が高くなる傾向となった。

可販10a換算A品収量は、調査区①、②が同等で、調査区③、④より多かった。

主な落等要因は、B品では夏期の奇形果や10月以降の先尖り果が多く、外品ではシワ果の他に外傷が多かった。本年度は極端な高温乾燥により上記の障害が出やすい条件となったと考えられた。

また、発生した障害の傾向について、追肥量の違いによる差異は判然としなかった。

今年度の調査では、追肥量の増加により果数はやや増える傾向にあるものの、可販10a換算収量は追肥量の違いによる傾向は判然としなかった。ただし、可販A品率の高さや、高温乾燥時における収量の増減の傾向から、調査区②が優れていると思われる。これらの傾向や要因について、今後の調査により把握する必要があると思われる。

### (2) 次年度以降の計画

継続

表1 収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①追肥29.0kg/10a×4	7,573	198.0	2,104	57.4	1,630	49.2	11,307	304.6	67.0	37.1	14.7
②追肥31.9kg/10a×4	7,617	201.4	2,005	53.4	1,913	55.2	11,535	310.0	66.0	37.2	15.0
③追肥35.0kg/10a×4	7,105	191.2	2,063	59.8	2,018	66.4	11,186	317.4	63.5	35.2	14.5
④追肥38.0kg/10a×4	7,242	195.8	2,493	78.6	2,108	61.0	11,843	335.4	61.2	35.3	15.4

続き

調査区	可販(A品+B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
①追肥29.0kg/10a×4	9,677	255.4	78.3	37.9	12.6	9.8
②追肥31.9kg/10a×4	9,622	254.8	79.2	37.8	12.5	9.9
③追肥35.0kg/10a×4	9,168	251.0	77.5	36.5	11.9	9.2
④追肥38.0kg/10a×4	9,735	274.4	74.4	35.5	12.7	9.4

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。

10a換算収量=総収量×1,300株/10a。10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。



表 2 障害発生率（個数％）

調査区	B品(個数％)							外品(個数％)							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①追肥29.0kg/10a×4	2.9	17.5	15.2	0.0	9.8	0.0	54.6	1.6	0.0	1.6	0.0	29.3	1.2	58.5	7.7
②追肥31.9kg/10a×4	1.6	15.2	13.7	0.6	18.4	0.0	50.5	0.7	0.0	0.4	0.0	32.2	2.9	58.0	5.8
③追肥35.0kg/10a×4	2.8	15.3	15.3	0.0	12.7	0.0	53.8	1.2	0.3	1.5	1.8	31.6	1.5	55.7	6.3
④追肥38.0kg/10a×4	1.3	15.1	22.9	0.2	11.4	0.0	49.0	2.3	0.3	0.3	0.0	38.4	2.3	50.2	6.2

※100%とならないのは四捨五入のため。

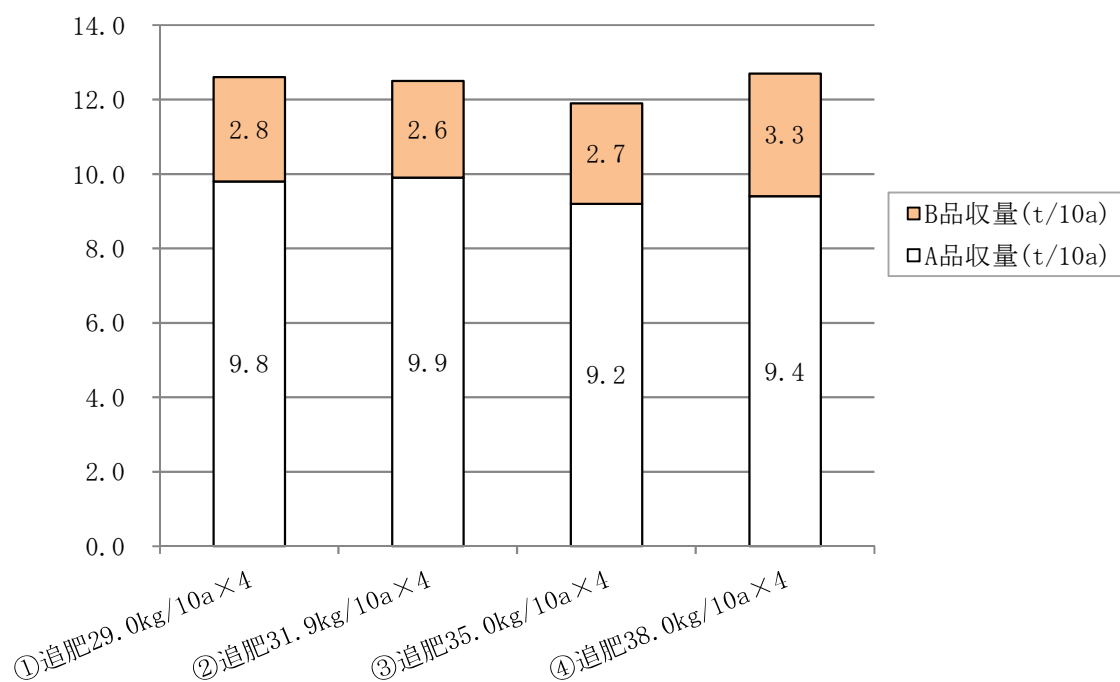


図 1 可販 10a 換算収量 (t/10a)

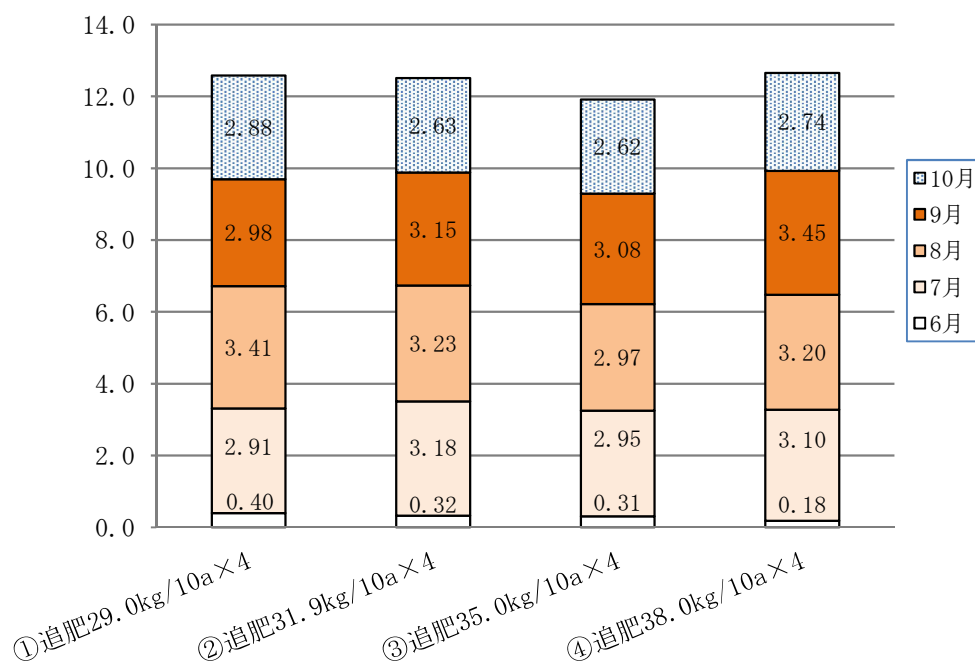


図 2 可販月別収量 (t/10a)

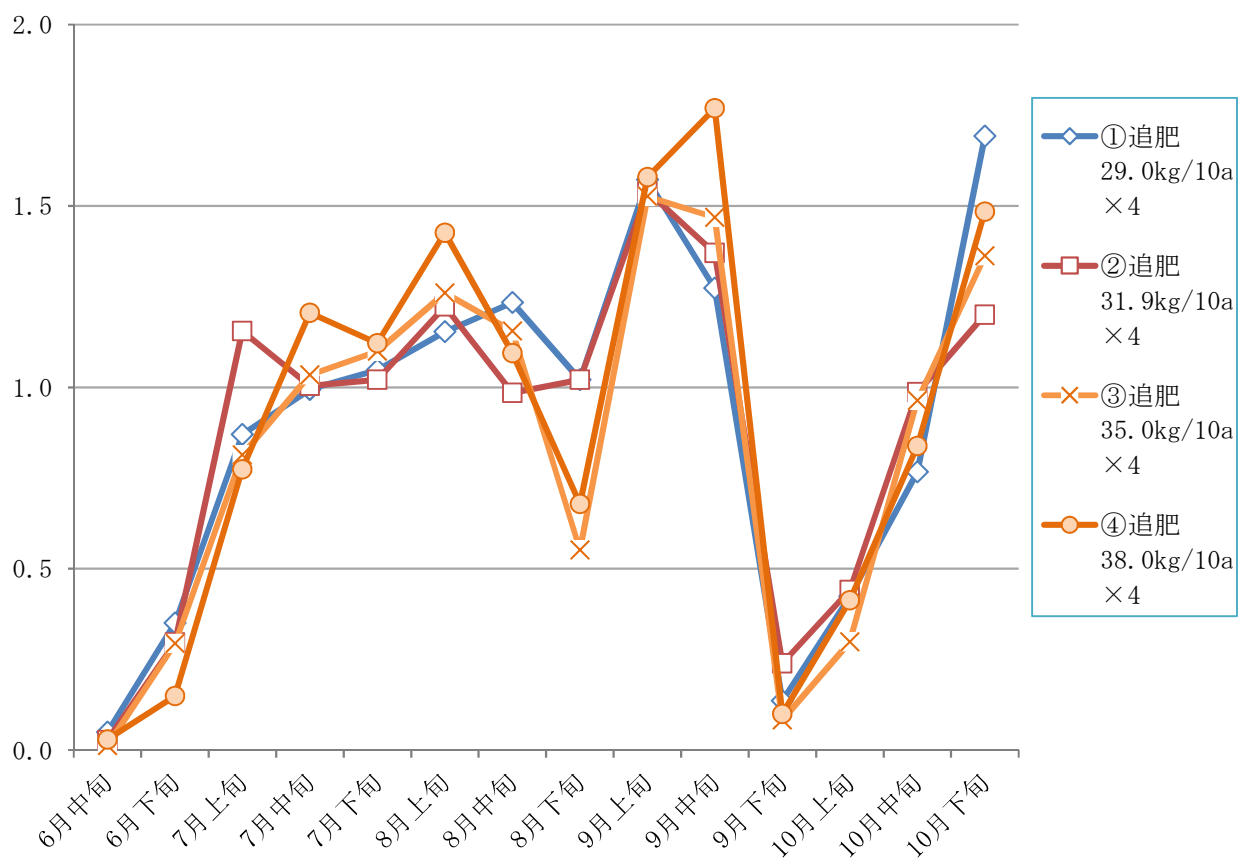


图2 可販旬別収量 (t/10a)

## 露地野菜の部 No.6

### 項目：栽培技術調査

#### 調査名：ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法(生育初期)による収量比較調査

(継続：令和4年度～令和6年度)

- 1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日 〈は種〉 〈定植〉  
令和5年3月16日 令和5年5月12日  
(定植直後パスライト1枚トンネル被覆)
- 3) 育苗日数 57日
- 4) 整枝方法 ①第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を12本に整枝、以降適宜整枝  
②第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を10本に整枝、以降適宜整枝
- 5) 第4分枝整枝日 令和5年6月12日
- 6) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
- 7) 定植株数 1,300株/10a
- 8) 施肥量 N-P-K=44.3-18.4-33.7kg/10a  
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10):133kg/10a  
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16):31.9kg/10a×4回  
令和5年7月11日、7月31日、8月21日、9月11日
- 9) 使用資材 暖あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段)
- 10) 収穫期間 令和5年6月14日～10月31日
- 11) 薬剤散布 38回(成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 2区(1区5株、1区制)
- 2) 供試品種 ピクシー (横浜植木㈱)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
- 10a換算収量及び10a換算A品収量の点から、調査区①が優れていた。  
調査区②は、枝の太さや葉色が調査区①とおおむね同等であり、収穫開始後の最初の整枝は調査区①に比べ10日ほど遅くなった。また、枝数が栽培期間を通して調査区①に比べやや少ない傾向であった。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育
- 定植後は順調に生育し、収穫は6月14日に始まった。実の肥大は順調であったが、その後の7月下旬から8月上旬の高温乾燥が、肥大遅れやシワ果の発生に伴う8月後半の減収、花落ち及び樹勢低下につながった。  
その後も高温が続き、樹勢は弱めで肥大は遅れ気味となった。また、9月前半及び10月後半は適度な降雨により収量は多くなった。  
なお、枝の太さや葉色は、調査区間でおおむね同等と見受けられた。  
収穫開始後の整枝は6月27日に行い、主に脇芽摘除を行った。次の7月19日の整枝では枝数が調査区②でやや少ないため作業時間がやや短く、8月以降の枝数及び整枝の頻度は同等となった。  
病害虫は、8月にオオタバコガ、テントウムシダマシの被害が散見された。
- 2) 収量
- 可販10a換算収量は、調査区①が上回った。

可販月別収量は、調査区①、②ともに8月が最も多かった。

可販旬別収量は、全体として調査区①の方でピークが早く現れる傾向となった。調査区②は、枝数がやや少ないため成り数が調査区①に比べやや少なく推移したが、8月には枝数が調査区①と同等となり、8月中旬に最も大きいピークとなった。ただし、同時期に乾燥が続いたことから樹勢が弱くなり、8月下旬に収量が大きく低下した。その後の降雨により9月上中旬に収量が回復し、さらに、降雨少照を経て10月下旬にピークが見られた。

### 3) 品質

総数A品率及び可販A品率は、調査区①が上回った。

可販10a換算A品収量は、調査区①が上回った。

主な落等要因は、B品では夏期の奇形果や10月以降の先尖り果が多く、外品ではシワ果の他に外傷が多かった。本年度は極端な高温乾燥により上記の障害が出やすい条件となったと考えられた。

また、発生した障害の傾向について、整枝の違いによる差異は判然としなかった。

本調査は、生育初期の積極的な整枝により、収穫盛期の整枝を省力化できるかの検討を目的とし、第4分枝の軟弱枝を摘除することで調査区①は12本、調査区②は10本に整枝した。

昨年度は調査区②が栽培期間を通して枝数がやや少ない傾向であったが、今年度は8月以降の枝数及び整枝の頻度が同等となった。昨年度とは天候の推移が異なったことが影響していると考えられたが、収量及びA品率は両年ともに調査区①が優れる傾向であった。

### (3) 次年度以降の計画 継続

表1 収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	A品率	平均 1果重	10a換算 収量
	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(%)	(g)	(t)
①第4分枝12本	7,617	201.4	2,005	53.4	1,913	55.2	11,535	310.0	66.0	37.2	15.0
②第4分枝10本	7,021	183.4	2,158	59.4	1,758	49.0	10,937	291.8	64.2	37.5	14.2

続き

調査区	可販(A品+B品)					
	収量	果数	A品率	平均 1果重	10a換算 収量	10a換算 A品収量
	(g)	(個)	(%)	(g)	(t)	(t)
①第4分枝12本	9,622	254.8	79.2	37.8	12.5	9.9
②第4分枝10本	9,179	242.8	76.5	37.8	11.9	9.1

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。

10a換算収量=総収量×1,300株/10a。10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2 障害発生率（個数％）

調査区	B品（個数％）							外品（個数％）							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①第4分枝12本	1.6	15.2	13.7	0.6	18.4	0.0	50.5	0.7	0.0	0.4	0.0	32.2	2.9	58.0	5.8
②第4分枝10本	0.9	15.1	12.3	0.3	13.4	1.7	56.3	1.2	0.0	2.0	0.0	28.6	0.4	63.7	4.1

※100%とならないのは四捨五入のため。



図 1 可販 10a 換算収量 (t/10a)

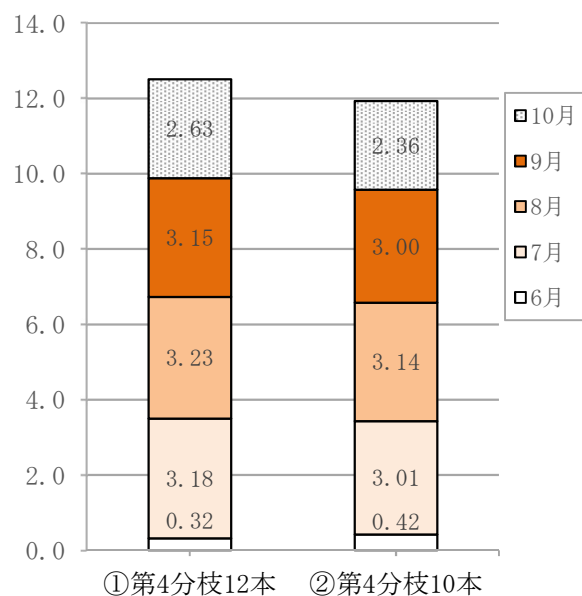


図 2 可販月別収量 (t/10a)

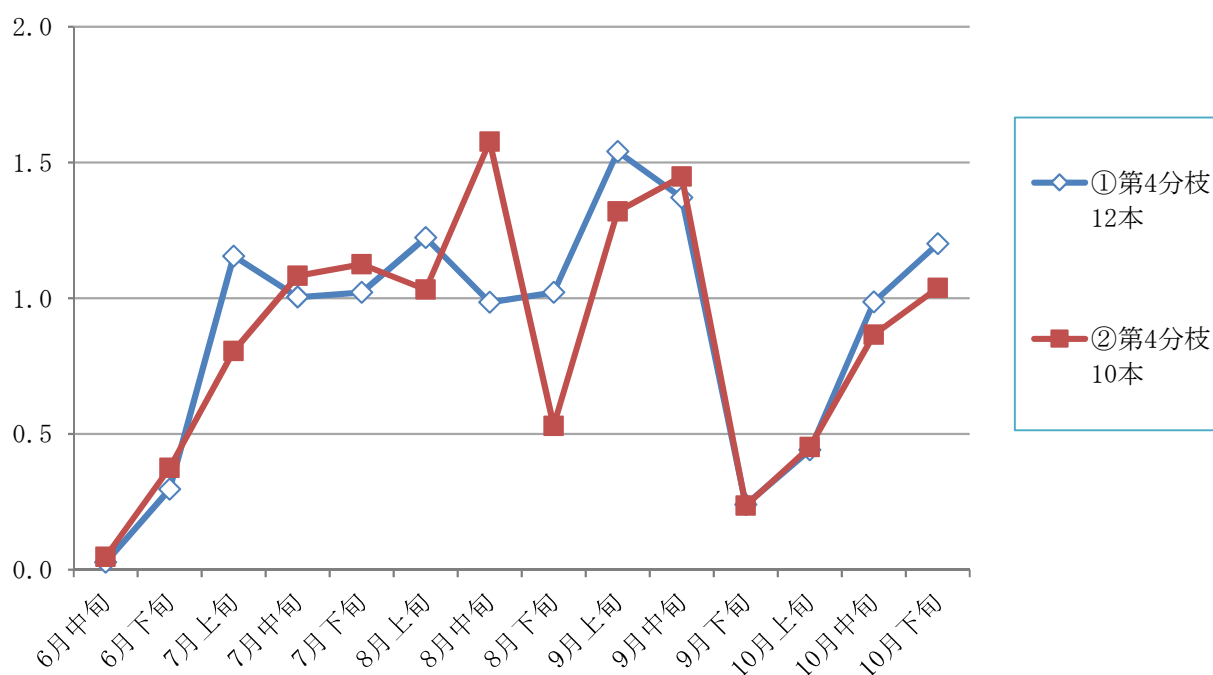


図 3 可販旬別収量 (t/10a)